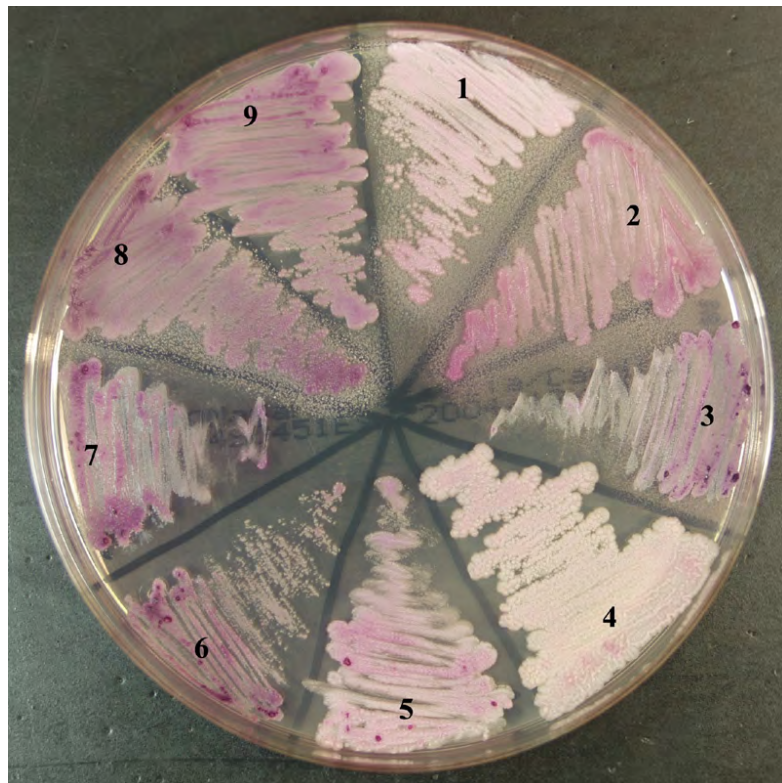


《テープ法による培養所見》
写真提供：北里大学 阿部 美知子先生

マラセチアの集落は、酵素基質によりピンク～紫色に発色し、検出が非常に容易になります。またテープ右上の緑色集落は *Candida albicans* で、主要カンジダ種との鑑別も容易です。



1; *M. pachydermatis*, 2; *M. sympodialis*, 3; *M. globosa*,
4; *M. furfur*, 5; *M. slooffiae*, 6; *M. obtusa*, 7; *M. restricta*,
8; *M. dermatis*, 9; *M. japonica*.

特長

- ① 本培地は脂質要求性のマラセチア属の発育支持に優れ、*M. furfur*から再分類された*M. restricta*, *M. obtusa*および*M. globosa*等、従来の培地では発育が困難とされる菌種の発育をも支持します(30～32℃, 3～7日間培養)。
- ② ある菌種は培地成分を沈殿させ、特徴的な外観を示します(写真参照1,2,3,8)。
- ③ カンジダ属に関してはコロニー性状を確認する事により、主要カンジダ種を鑑別できます。
- ④ 真菌以外の微生物の発育を強く抑制します。
- ⑤ 本培地は培地コントラストが高く、かつ発育必須成分がエマルジョンとして含まれており、コロニー性状を認識しやすくなっております。

はじめに

真菌が関与する皮膚疾患は大きく2つのグループに分けられます。1)真菌が原因となり、病原性を発揮することにより発症する皮膚真菌症と、2)すでに存在する皮膚疾患に真菌が増悪因子として働く場合です。この二つ目のグループに入る代表的皮膚疾患としてアトピー性皮膚炎(AD)や脂漏性皮膚炎等が注目されています。ADの増悪因子として、a)重症のAD患者血清中にカンジダやマラセチアに対するIgEが検出され、またb)50-60%の症例で抗真菌剤の投与が効果を示すことから、その発症や悪化に真菌アレルギーが関与することが示唆されてきております。マラセチアはGuehoら(1996)により7菌種に再分類され、主要菌種と考えられておりました*M. furfur*から再分類された、*M. restricta*, *M. obtusa*および*M. globosa*は従来使用されておりますオリーブ油重層ペテブドウ糖培地等では発育を支持しません。

発育支持能

第86回 日本細菌学会講演抄録集 p185, 2003. Medical Mycology 43, p699-704, 2005

	Oil-PDA	mDIX	CHROM	
<i>M. furfur</i>	4+	4+	4+	本培地では、マラセチア7菌種の高い発育支持能が確認されております。 Oil-PDA;オリーブ油重層ペテブドウ糖 mDIX ;改良Dixon培地 CHROM;クロモアガーマラセチアカンジダ 4+;100倍希釈で発育 3+;10倍希釈で発育 2+;原液で発育 1+;コロニーからの直接塗抹で発育 NG;非発育 (原液McFarland 0.5)
<i>M. sympodialis</i>	2+	4+	4+	
<i>M. globosa</i>	NG	NG	3+	
<i>M. obtusa</i>	NG	1+	3+	
<i>M. slooffiae</i>	2+	4+	4+	
<i>M. restricta</i>	NG	1+	1+	
<i>M. pachydermatis</i>	4+	4+	4+	

その他



本培地では、主要カンジダ種の鑑別能を有します。各種カンジダの発育性状を左図に示します(30°C, 4日間)。

写真上部から時計回りに


C. albicans, *C. glabrata*, *C. tropicalis*, *C. krusei*, *C. parapsilosis*

*クロモアガーカンジダとは若干発育所見が異なります。

製品コード	製品名	包装
72047	クロモアガーマラセチア/カンジダ生培地	20枚
717591-5	改変リーミング斜面培地*	50本
717590-5	サブローブドウ糖斜面培地	50本

*改変リーミング斜面培地はマラセチアの継代培養に利用できます。

CHROMagarはDr.Rambachの登録商標です。

 関東化学株式会社
試薬事業本部 試薬部

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2丁目2番1号

TEL: 03-6214-1090

HP: <https://www.kanto.co.jp>